

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地		
新潟こども医療 専門学校		平成10年3月25日		小見 英晴		〒950-0084 新潟市中央区明石1丁目3番5号 (電話) 025-241-0136		
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地		
学校法人 新潟高度情報学園		平成10年3月25日		柁坂 昌業		〒950-0084 新潟市中央区明石1丁目3番12号 (電話) 025-241-0133		
目 的	学校教育法に基づき、教育・保育・社会福祉分野における専門的な知識、技術の教授と併せ、道義・礼節・作法などの高い教養人格を備えた学士取得にふさわしい、社会人ならびに専門的職業人を養成する。							
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与		
こども	教育・社会 福祉専門課 程	こども未来学科	4年(昼)	3425単位時間 H27年度(又は単位)	—	平成22年文部科学 大臣告示第157号		
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技		
		3330単位時間 (又は単位)	825単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	956単位時間 (又は単位)	555単位時間 (又は単位)		
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
160人		98人		4人		35人		39人
学期制度		■前期：4月1日～9月20日 ■後期：9月21日～翌年3月31日		成績評価		■成績表(有) ■成績評価の基準・方法について 中間試験ならびに学期末試験に重点を置き、出席状況、授業態度等を多面的に評定した総合点にて評価する。上位A～Cが単位認定される。		
長期休み		■学年始め：4月1日～4月14日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月24日～1月7日 ■学 年 末：3月20日～3月31日		卒業・進級条件		①年間出席率90パーセント以上 ②成績評価がすべてC評価以上 ③学費・諸経費年度内全納		
生徒指導		■クラス担任制(有) ■長期欠席者への指導等の対応 担任による定期的な連絡および保護者を含めた面談等、場合に応じ適宜実施する。		課外活動		■課外活動の種類 幼稚園や保育所における学生の自主的なボランティア活動 ■サークル活動(有)		

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 卒業生数 計32名中 ・高等学校養護助教諭（1名） ・小学校養護助教諭（1名） ・幼稚園教諭（2名） ・保育士（16名） ・保育教諭（2名） ・福祉施設支援員・指導員（6名） ・一般企業（2名）</p> <p>■就職率※1 93.8% ■卒業者に占める就職者の割合93.8% （平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報）</p>	主な資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学士（称号） ・ 小学校教諭一種免許 ・ 養護教諭一種免許 ・ 幼稚園教諭一種免許 ・ 保育士資格 ・ 社会福祉主事任用資格 ・ こどものためのリトミック指導資格1級 ・ マイクロソフト オフィス スペシャリスト
中途退学の現状	<p>■中途退学者 7 名 ■中退率 0.6 % 平成27 年 4月 1日在学者 105 名（平成 27 年 4月入学者を含む） 平成28 年 3月 15日在学者 98 名（平成 28 年 3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止のための取組 補習授業、個別ガイダンス、保護者面談等、きめ細やかな個別指導を実施している。</p>		
ホームページ	URL: http://kodomoiryo.com/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

国家資格である保育士資格ならびに幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭の各一種免許状を取得するため、保育所、幼稚園、小学校、児童福祉施設、社会福祉施設等での実習を行う。また、実践力のある教員、施設職員を育成することを目標とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
吉澤 克彦	新潟県教育カウンセラー協会 副会長
北澤 潔	学校法人 聖尚学園 認定こども園 今町天使幼稚園 えんぜる保育園 理事長
山賀 亮一	社会福祉法人 新潟もぐら会 ポプラの家 施設長
田中 和枝	学校法人新潟高度情報学園 新潟えきなか保育園園長
小見 英晴	新潟こども医療専門学校 学校長
横堀 正浩	新潟こども医療専門学校 副校長
戸川 俊	新潟こども医療専門学校 教務主任
山田 すみ江	新潟こども医療専門学校 こども発達学科主任
石川 美穂	新潟こども医療専門学校 保育科主任
河合 純	新潟こども医療専門学校 こども未来学科主任

第1回 平成27年 12月22日(火) 13:30~15:00 於:新潟こども医療専門学校 1号館 132教室

第2回 平成28年 3月15日(火) 13:30~15:00 於:新潟こども医療専門学校 1号館 132教室

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
教育実習(幼稚園)	・座学で習得した理論と、園での保育実践のすりあわせをしながら、こどもに応じた教諭の関わりを体験的に理解し、様々な教育技術を習得する	学校法人 神宮学院 ・認定こども園 神宮幼稚園 ・認定こども園 寺尾幼稚園 ・認定こども園 親松幼稚園等
保育実習 I	・保育所および乳幼児への理解を深める。 ・保育所の機能と保育士の職務を理解する ・生活や遊びなどの保育技術を習得する。 ・障害児、障害者施設での機能の理解、利用者とのかかわり方についての支援技術を習得し理解を深める。	新潟市立中野山保育園 赤沢保育園 他 新潟県立はまぐみ小児療育センター 新潟県立若草寮 他

保育実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所および乳幼児への理解を深める。 ・ 保育所の機能と保育士の職務を理解する ・ 生活や遊びなどの保育技術を習得する。 	新潟市立万代保育園 門前にこここ保育園 他 社会福祉法人 新潟もぐら会
保育実習Ⅲ	児童福祉施設等（保育所以外）の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能と保育士の職務について学ぶ。	ポプラの家 社会福祉法人 白蓮福祉会 ワークセンターふぁみりー 等

3. 教員の研修等

（教員の研修等の基本方針）

本校研修規程第2条に基づき、授業の質向上に向けた情報収集や情報交換を図ることを目的とし、日本保育学会、日本遊戯療法学会、全国保育士養成協議会そして幼稚園協会等の、保育および教育関係諸学会ならびに協議会、情報交換会に関係教員が参加し、事後報告会や日々の実践を通じ、質的向上につなげる。

4. 学校関係者評価

（学校関係者評価委員会の全委員の名簿）

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
牛腸 和子	C o C o ・ ネット 代表
白川 初美	社会福祉法人美勢会 あいりす保育園 理事長
石澤 直樹	学校法人新潟高度情報学園 理事
小見 英晴	新潟こども医療専門学校 学校長
横堀 正浩	新潟こども医療専門学校 副校長
戸川 俊	新潟こども医療専門学校 教務主任
小熊 亜沙子	新潟こども医療専門学校 医療分野学科主任

（学校関係者評価結果の公表方法） URL: http://kodomoiryo.com/?page_id=1100

5. 情報提供

（情報提供の方法） URL: <http://kodomoiryo.com/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			こども学概論	こどもが本来持っている力を理解し、それぞれ抱える問題や障害についての要因や背景について考察する	2 前	60	2	○		
○			憲法	憲法の基本原理, 各人権規定の内容及び統治機構について学ぶことを通じ, 法学的思考(バランス感覚)を身に付ける。	1 後	60	2	○		
○			情報処理技術 I (基礎)	Microsoft Word の基本機能ならびに Microsoft Excel の基本機能を活用できるようにする。	1 後	15	1		○	
○			情報リテラシー	コンピュータのしくみについて理解し、教育現場をはじめとする実務にて活用できる能力を身に付ける。	1 前	15	1	○		
○			英語コミュニケーション I	英語読解力、ライティング力など、英語技能の総復習・向上を図ることを目標とする。文法事項の説明も行い、基本的な英語知識の定着を図る。	2 前	30	2	○		
○			健康科学	生涯にわたって健康の自己管理ができる知識を身につける。また、定期的な運動が持つ生活習慣病予防について知識を深める。	1 前	30	1	○		
○			スポーツ (実技)	運動を行いながら知識の獲得を行う。ストレッチ運動や体づくり運動・協調運動・球技・複合運動など様々な種目を実践する。	1 前	15	1			○
○			教職論	教職の意義、教員の任用と服務、具体的な職務内容、資質向上と研修、職場の環境、教育実習の目的と実際等について、資料や学習プリントなどを通して追求する。	2 前	60	2	○		
○			教育原理	① 教育の意義、教育の目的を正しく理解する。 ② 教育思想と日本の教育変遷を学び、経緯を理解する。 ③ 日本と諸外国の教育制度に関する知識を獲得する。 ④ 生涯学習社会における学校教育と社会教育の現状と課題を把握する。	2 後	60	2	○		

○		教育心理学	保育者を目指す上での、日常生活における身近な例を取り上げながら、教育心理学の基礎を習得する。	2 前	30	2	○		
○		発達心理学	保育者を目指すうえでの、発達心理学の基礎を習得する。	1 前 4 後	120	4	○		
○		発達検査法	臨床教育の場面で役立つ各種アセスメントを紹介するとともに、アセスメントの有効な活用について事例を通して学ぶ。	4 前	60	2	○		
○		学校・学級経営論	わが国の学校教育制度の下における学校経営・学級経営に関する基礎 的・基本的事項を学習し、それらの意義、役割等についての認識を深める。	4 後	60	2	○		
○		教育課程論	教育の目標をどのような方法で与えるのかの教育課程の理論と実際を学ぶ。	3 前	60	2	○		
○		教育方法論	① 授業とは何かを、教師として授業をする立場からイメージする。 ② 教材・教具・教科書とその役割を理解する。 ③ 授業分析と評価方法を知る。	3 後	60	2	○		
○		教育実践演習 (幼・小・中・高)	将来教育者を目指すために実践授業やレポート等を行う。また卒業論文と関連する個々の研究材料の発掘を行う。	4 後	15	1		○	
○		音楽科指導法	① 音楽科の学年別表現・鑑賞の内容・目標の学習 ② 共通教材ピアノ ③ 小学校音楽授業における音楽鑑賞の方法・実践	4 後	60	2	○		
○		図工科指導法	小学校の図画工作科の目標、内容及び指導の方法について理解を深め、学校現場で授業を行うための実践力を身につける。教材や指導法の研究も踏まえて、実技活動も通して具体的に学ぶ。	4 前	60	2	○		
○		体育科指導法	小学校体育科の意義を理解し、教科の中で体育科の果たす役割を知り、各領域の具体的な指導内容および方法を学習し、さらに運動技能の習得がこどもの健全な心と身体の発達に影響を及ぼすことを学ぶ。	3 後 4 前	60	2	○		
○		教育実習事前・事後指導 (幼稚園)	幼稚園教育実習への姿勢、幼児教育活動に関わる際に求められることも理解、実習体験を通して認識すべき内容について学習するとともに、学習指導案の作成、実習記録方法について学ぶ。	3 前	15	1	○		
○		教育実習 (幼稚園)	座学で習得した理論と、園での保育実践のすりあわせをしながら、こどもに応じた教諭の関わりを体験的に理解し、様々な教育技術を習得する。	3 通	160	4			○

		○	教育実習事前・事後指導 (小学校)	小学校教育実習への姿勢、学校教育活動に関わる際に求められることも理解、実習体験を通して認識すべき内容について学習するとともに、学習指導案の作成、模擬授業、実習記録方法についても学ぶ。	4 後	15	1	○		
○			地域ボランティア	ボランティア活動を通して、教育の厳しさや喜びを体験し、教職を目指す者としての自覚を高め、実社会の中で人間関係をいかに作り上げていくのかを実践的に学ぶ。	3 通	45	1		○	
○			国語 I	幼児児童のことばの発達を助けたり、小学校の国語科の教授を行ったりするための基礎として、国語についての知識を学ぶとともに、国語についての認識を深めることを目的とする。	3 前	60	2	○		
○			生活	① 「生活」という概念について理解する ② こどもの生活環境の問題性について理解する ③ こどもの生活充実につながる遊びの意義を十分に把握する ④ 遊びを中心として、乳幼児・児童期にふさわしい生活を実現していくための保育環境・教育環境のあり方を学ぶ。	4 前	60	2	○		
		○	生活科指導法	生活科の授業を受け持つにあたり、注意点や指導案の作成などに取り組み模擬授業などをおこなう。	4 前	30	2	○		
○			こどもと環境 I	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。	2 後	15	1		○	
○			こどもと健康 I	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。	2 後	15	1		○	
○			こどもと人間関係 I	・乳幼児の発達に応じたこども理解の基盤の確立 ・乳幼児の発達・人間形成と人間関係のかかわりについての理解 ・乳幼児の発達支援のための実践方法を知る	2 前	15	1		○	
○			こどもと造形表現 I	こどもの表現や発達をイメージし、かつ、美術・造形の基礎・基本が身につく、実際に役立つ教材展開方法を学ぶ。	1 前	15	1		○	
○			こどもと表現 I (体育)	運動を行いながら知識の獲得を行う。ストレッチ運動や体づくり運動・協調運動・球技・複合運動など様々な種目を実践する。	2 後	15	1		○	
○			こどもと言葉	・現在のこどもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎専門知識を得る。 ・乳幼児の言葉の発達のしくみを知り、発達段階に合わせた関わりと言葉がけの大切さを理解する。	2 後	30	1		○	
○			こどもと表現 II (図工)	こどもの表現や発達をイメージし、かつ、美術・造形の基礎・基本が身につく、実際に役立つ教材展開方法を学ぶ。	1 後	15	1		○	

○		こどもと音楽表現Ⅰ（ピアノ）	個人レッスンにより、ピアノの表現方法とその応用（弾き歌い）を習得する。採用試験や保育、教育現場にも対応できる基礎力を培う。	1 後	15	1	○	
○		こどもと音楽表現Ⅱ（声楽）	ソルフェージュを通じて読譜力と実践力を養うことを目的とし、読譜力確認と、新曲視唱技能向上を図る。教員採用試験に実践的に対応できる音楽的な表現力を身に付ける。	1 前	15	1	○	
○		こどもと言語表現	言葉の発達において乳幼児期に児童文化財に触れる大切さを理解する。 発達段階に合わせた教材選びや絵本の読み聞かせ等、現場で役立つ知識や技術を習得する。	1 前	30	1	○	
○		こどもと体育Ⅰ	① 幼児体育活動の計画・実践することができる。 ② 運動・スポーツの教育的可能性を理解し、発達段階に応じた指導ができる。 ③ 幼児体育を取り巻く状況について理解する。	1 後	15	1	○	
○		こどもと体育Ⅱ	① 体育授業活動を計画・実践することができる。 ② 運動・スポーツの教育的可能性を理解し、発達段階に応じた指導ができる。 ③ 学校体育を取り巻く状況について理解する。	2 後	15	1	○	
○		こどもと造形表現Ⅱ	こどもの表現や発達をイメージし、かつ、美術・造形の基礎・基本が身につく、実際に役立つ教材展開方法を学ぶ。	2 前	15	1	○	
○		こどもと造形表現Ⅲ（実技）	こどもの表現や発達をイメージし、造形の基礎・基本が身につく、実際に役立つ教材展開方法を実技制作活動を通じて学ぶ。	2 前	15	1	○	
○		こどもと音楽表現Ⅳ（ソルフェージュ）	ソルフェージュを通じて読譜力と実践力を養うことを目的とし、読譜力確認と、新曲視唱技能向上を図る。教員採用試験に実践的に対応できる音楽的な表現力を身に付ける。	2 後	15	1	○	
○		保育原理	保育の意義について理解するとともに、保育所保育指針における保育の基礎・基本を学ぶとともに、保育の思想、歴史、制度について概略を学び、現代社会の子育て問題について認識を深める。	1 後 4 後	120	4	○	
○		児童家庭福祉	・福祉の歴史と現状を統計などから理解する。 ・保育所以外にも児童と家庭に関わっている機関や職種について理解する。	1 前	60	2	○	
○		社会福祉論	家族がそれぞれ抱えている課題や現代の課題を理解し、家族や地域を支援する保育士の役割を理解する。社会福祉全般の制度を理解し、知識を深める。	1 前	60	2	○	
○		相談援助	・これまでの学習や実習をふまえ、相談援助の基本的な知識や理論について理解する。 ・相手を理解することや、相談援助の技法をグループワークを通して理解する。	1 後	15	1	○	

○		社会的養護	・保育士国家試験科目である「社会的養護」で合格点である6割が取れることを目指す。 ・児童福祉法第7条で定める児童福祉施設全11施設の概要理解を目指す。	1 前	60	2	○		
○		保育者論	保育者の仕事の専門性、幼稚園教諭、保育士として知っておくべき法制度、近年特に注目されている保護者支援と地域の子育て支援、研修の在り方等を踏まえ、保育者に必要な資質と責務、保育者の担う役割について学ぶ。	1 後	60	2	○		
○		こどもの保健Ⅰ	こどもの健康を守り推進するという重要な役割を持つ保育士として、保育上必要な小児保健の知識を修得する。	2 前	60	2	○		
○		こどもの保健Ⅱ	こどもの病気についての学習を通し、できるだけ個々の健康問題を取り上げ、現場での実践に必要な情報を学ぶ。	2 後	60	2	○		
○		こどもの食と栄養	こどもの身体の特徴を理解し、小児期に必要な栄養・食生活の重要性をそれぞれの時期に応じた食事の知識を習得する。	2 前	30	2	○		
○		家庭支援論	・保育士が家庭支援をおこなう意味について考える。 ・子育て家庭の現状について考え、子育て家庭を支える制度等について具体的に学ぶ。	2 前	60	2	○		
○		保育課程論	「教育課程」「学習指導要領」の変遷について学び、社会情勢やこどもの状況から教育政策が見直され、ひいては日々の教育(保育)活動に繋がっていくシステムを理解する。	2 後	60	2	○		
○		保育内容総論	保育士として働くうえで必要となる保育指針や5領域等の知識について学ぶ。	1 前	30	1	○		
○		乳幼児保育	・乳児期のこどもの成長発達・環境・保育内容を学ぶ。 ・乳児期に保育現場に必要な知識・技術を実技指導を通して学ぶ。 ・乳児保育に必要な知識(保護者支援・歴史と現状・児童福祉法・保育所保育指針)を学ぶ。	1 後	15	1	○	○	
○		障害児保育Ⅰ	障害のあるこどもの身辺自立の支援方法と障害のあるこどもへの支援方法について学習します。後半はこどもの気になる行動についてみていき、その支援方法について学ぶ。	1 後	30	1	○		
○		障害児保育Ⅱ	こどもの気になる行動についてみていき、その支援方法について事例を通じて学ぶ。	2 後	15	1	○		
○		社会的養護内容	さまざまな問題を抱えるこどもの自立を支援し、権利を擁護する養護の内容、支援の方法や技術、支援者に求められる倫理について、さまざまな事例を通して学ぶ。	1 後	15	1	○		

○		保育相談支援	・事例問題を通して保護者相談の実際を学ぶ。 ・相談技法について、お互いのロールプレイを通して学ぶ。	1 前	30	1	○		
○		精神保健	精神面の健康を対象に精神障害の予防・治療を行い、精神的健康の保持・向上をめざすとともに、保護者への対応方法についても学ぶ。	2 後	60	2	○		
○		保育実習論 I	保育所実習及び施設実習を行うために十分な準備をするとともに、実習後に十分な学びを蓄積し、振り返り反省しながら保育の実践に向かっていくことができるようにする。	2 前	30	2	○		
	○	保育実習論Ⅱ 保育実習論Ⅲ (いずれか)	保育所実習及び施設実習を行うために十分な準備をするとともに、実習後に十分な学びを蓄積し、振り返り反省しながら保育の実践に向かっていくことができるようにする。	2 前	15	1	○		
○		保育実習 I	・保育所および乳幼児への理解を深める。 ・保育所の機能と保育士の職務を理解する。 ・生活や遊びなどの保育技術を習得する。 ・施設の機能と保育士の職務を理解する。 ・児童福祉施設、利用者と家族についての理解を深める。	2 通	160	4			○
	○	・保育実習Ⅱ ・保育実習Ⅲ (いずれか)	・保育所保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得するとともに、子育て支援に必要な能力を養う。 ・児童福祉施設や、その他社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	2 後	80	4			○
○		教材研究 I	・保育現場で活用できる作品(グッズ)を作り、演じる練習をする。 ・保育者としての基本的な技術を身につける。	1 通	60	2			○
○		教材研究Ⅱ	「ペーパーサート」「牛乳パックシアター」「パクパク人形」の個人製作と「手遊び」「折り紙」など基本的な教材技術の習得活動の「導入」や「演出」を工夫したり、グループワークや発表の際の自己発揮したり、人前での表現にも慣れていくことを目的とする。	2 通	60	2			○
○		教材研究Ⅲ	・シナリオ作り ・人形制作 ・舞台バック制作 ・園訪問での発表 ・日々の保育で使えるグッズの制作 ・遊びの習得(手遊び・遊びうた・集団遊び・体操他)	3 通	60	2			○
○		保育実習指導	・実習に向け、基本的な事項を確認、理解する ・振り返りを行い、反省 課題を見つけて実習に繋げる ・部分実習指導案、実習日誌の書き方を身につける ・人前で話して伝えたり、引き付けて相手を楽しませる方法をロールプレイする事で学び合い自分の力にする	123 通	180	6			○
○		実習	系列園において、系列園教員もしくは職員の指導のもと、実習を行い、現場を知るとともに、その場にあった教育・援助方法等を学ぶ。	1 通	80	4			○
○		こどもとリズム表現 I	①幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」のあり方について ②個々の楽器奏法を学習経験し自らの表現力を広げる。 ③伝承遊びを中心に手遊び・表現遊び・リズム表現・音楽表現のいろいろな実践 ④リズム表現	1 後	30	1			○

			活動をグループで進め発表する。						
○		リトミック	ピアノ技術向上と共に、写譜を通して楽譜についての基礎知識をつける。年齢別のリトミック指導をティーチングを通して獲得する。クラブやステップをすることで身体表現力を高める。簡単なリトミック遊びを身に付け実習や就職してから役立たせる。	2 後	60	2		○	
○		リトミック応用	①新潟えきなか保育園において指導者が園児に指導している様子を1歳児～5歳児まで見学し、年齢別指導法を学習する。 ②いろいろなリトミックの手法を実際に体験しながらねらいも含めて学習し、就職してから応用できるようにする。	3 通	60	2		○	
○		リクルートガイダンス	自らが将来携わる職業に関する理解を深めるとともに、就職活動の流れ・実務内容を把握し、主体的かつ積極的に就職活動を行うことができる。	3 後 4 通	90	4		○	
○		情報処理Ⅰ	学校での学習や、社会に出て仕事に携わる時に、コンピュータによる情報処理技術が必要となる。 本教科では、コンピュータのしくみについて理解し、活用できる能力を身に付ける。	1 後	60	2			○
○		情報処理Ⅱ	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、 Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。	2 通	60	2			○
○		情報処理Ⅲ	実習や就職してから作成することになるおたよりを作成できるようにする。後期の最終成果物であるデジタル絵本をPowerPointで作成してもらうため、PowerPointの基本操作をおさえる。	3 通	60	2			○
○		総合演習	保育、教育現場に必要な一般常識ならびに一般教養を演習を通じて身につける。	3 通	60	2		○	
○		文章表現	実習および実習事前事後の書類作成過程で必要な文章作成能力を培う。	1 通	60	2		○	
○		論文	保育、教育に関する論文作成法の習得と実践	3 通	60	2		○	
○		HR (ホームルーム)	学級成員相互の連携強化ならびに各実習に際する事務連絡や伝達、書類作成作業等を行う、学級ごとに行われる科目。	1234 通	120	4		○	○
○		卒業研究	研究テーマを決め、教員の指導のもとに研究活動を行い、これを通じて研究の進め方、問題解決法などを学ぶとともに、これまでの学びの成果物を作成する。	4 通	60	2		○	

○		発達障害児論	発達障害に関する知識を獲得し、養護教諭として発達障害者の対応ができるようにする。	4前	60	2	○		
	○	教育課程論の理論と方法	教育の目標をどのような方法で与えるのかの教育課程の理論と実際を学ぶ。	4前	30	2	○		
	○	道徳教育論	道徳と倫理、法律との異同を適切に理解した上で、道徳教育の理念、歴史および現状について認識し、さらに道徳教育の授業を構想する力を身につける。	4後	30	2	○		
	○	道徳教育の理論と方法	道徳と倫理、法律との異同を適切に理解した上で、道徳教育の理念、歴史および現状について認識し、さらに道徳教育の授業を構想する力を身につける。	4後	30	2	○		
	○	特別活動指導法	小学校教員における教育課程のもとづく、特別活動についての理解を深めるとともに、特別活動を進められる教員としての実践的指導力の基礎を身につける。	4後	30	2	○		
	○	教育方法の理論と方法	①授業とは何かを、教師として授業をする立場からイメージする。 ②教材・教具・教科書とその役割を理解する。 ③授業分析と評価方法を知る。	3後	30	2	○		
	○	生徒指導・進路指導	児童生徒の望ましい人間形成を指導援助する生徒指導・進路指導の基本を理解させる。	3後	30	2	○		
	○	生徒指導・進路指導の理論と方法	児童生徒の望ましい人間形成を指導援助する生徒指導・進路指導の基本を理解させる。	3後	30	2	○		
	○	教育相談の理論と方法	・生徒指導・教育相談の基礎理論を学習する。 ・教育現場で起こり得る事例に関して、G.W.、G.D.を用いて対応策を検討し、多角的に問題を把握する。	4後	30	2	○		
	○	教職実践演習 (養護)	これまで学んできた養護教諭科目をはじめとした学びを振り返り、社会人としてのスキルを獲得できるように進める。	4前	15	1	○		
	○	国語科指導法 I (国語)	各領域等の具体的な教材と教材研究のあり方について指導要領をつかむとともに、単元の組織の仕方、学習活動構成方法や手立てについて理解し、指導案作成につなげる。	3後	30	2	○		
	○	外国語活動指導法	①学習指導要領解説「小学校外国語活動」を理解する。 ②様々な外国語学習指導法の理論を理解し、実践例を通して「小学校外国語活動」に親しむ。 ③指導者として必要最低限の英語の発音を身につける。 ④「小学校外国語活動」学習指導案の作成ができる。	4後	30	2	○		

		○	社会科指導法	小学校社会科教育における地域教材や歴史教材の構成および学習指導計画作成を通して、児童にとって魅力ある教材開発と授業展開方法を学ぶ。	3 後	30	2	○		
		○	算数科指導法	①算数科教育に関する基本的な知識を習得する。 ②教材研究と学習指導案作成ができるようにする。	3 後	30	2	○		
		○	理科指導法	①理科指導に必要な基本的な考え方、姿勢、技能等を実践的に学ぶ。 ②教材開発、授業展開方法、学習指導案作成などを学ぶ。	3 前	30	2	○		
		○	家庭科指導法	家庭科指導に必要な教材観、指導観を養い、指導力を高めることを目標とする。 ①家庭科カリキュラム作成と教材選択、運用 ②指導計画および評価方法	3 前	30	2	○		
		○	教育実習（小学校）	①教育理論の実証的研究を行う。 ②児童の発達や学校生活実態について理解する。 ③教師と児童の信頼関係の大切さを理解する。 ④小学校教師の役割を理解し、教育活動の実践的認識を深める。 ⑤教職現場体験により教職志望を確認し、教育研究意欲を高める。	4 後	80	4			○
		○	養護実習事前・事後指導	養護実習の全体像把握と実習目的、意義についての理解を深め、実習への心構えを明確にする。また、基礎的知識や技術、マナーや倫理の確認を行い、実習に向けた準備を行う。	4 前	15	1	○		
		○	養護実習	①学校教育現場について理解する。 ②保健室、養護教諭の役割について理解する。 ③養護教諭の職務を体験し、必要な能力を養う。 ④養護教諭への意欲を高めると共に、必要な資質、態度について理解する。	4 前	160	4			○
		○	社会	社会科学習指導要領の目標と内容をしっかりと認識し、指導計画作成に必要な基本的知識を身につけるとともに、具体的な学習指導計画の特色を分析することにより、指導計画作成の根本原理を習得する	3 前	30	2	○		
○			算数	① 小学校算数科の学習指導要領と主要な内容を理解する。 ② 小学校算数科の指導案作成と教材研究方法を理解する。	3 前	60	2	○		
		○	理科	・学習指導要領改訂への経緯を踏まえ、理科の目標について学ぶ。 ・事例考察を通して、各領域の基本事項と指導方法を実践的に学ぶ	3 前 4 前	30	2	○		
○			こどもと環境Ⅱ	社会事象に焦点をあてるとともに、文化の多様化がもたらす可能性、および問題点について考察し、こどもへの最適な社会環境について学ぶ。	2 後	15	1			○

○			こどもと健康Ⅱ	関連他領域内容を参照しながら、日常生活における基本的 生活習慣の確立、集団生活を通して友達や教育者・保育者 などの他者との関わり方など、態度や習慣面も含めた指導 方法について学ぶ	2 前	15	1	○		
○			こどもと人間関係Ⅱ	保育5領域の一つである「人間関係」について学び、こども たちがどのようにして人間関係を築いていくかを事例を踏 まえて習得する。	2 前	15	1	○		
		○	看護学演習Ⅰ	すべての発達段階にある対象に看護活動を展開する上 で、看護援助に共通する看護基礎技術の基盤となる知識・ 技術・看護者として望ましい基本的態度を習得する	4 前	30	2	○		
		○	看護学演習Ⅱ	すべての発達段階にある対象に看護活動を展開する上 で、看護援助に共通する看護基礎技術の基盤となる知識・ 技術・看護者として望ましい基本的態度を習得する	3 後	30	2	○		
○			公衆衛生学Ⅰ	健康と疾病の概念を学びつつ、健康の維持・増進に関わる 諸問題について考えていく。各種疾病の医学的・疫学的理 解、予防法の具体的な内容について学習する。	4 後	60	2	○		
○			公衆衛生学Ⅱ	「人体構造学」と互いに連携を持ちながら、人体を構成する さまざまな器官を機能および系統別にまとめ、肉眼レベル および細胞・組織レベルで、その形態と構造の成り立ちと構 成要素ならびにその仕組みや機能を学ぶ。このことより、人 体の構造と機能に関する基礎的な知見を修得する。	4 前	60	2	○		
		○	学校保健	児童・生徒の健康とその確保に関する理論を探求するととも に、実際に保持増進させるための方法を学校保健安全法 及び学習指導要領を中心に検討する。	3 後 4 前	30	2	○		
		○	健康相談活動	1. 健康と養護の概念 2. 養護教諭の成立経緯と養護教諭の職務 3. 生活習慣と健康相談活動 4. 身体症状と健康相談活動	3 後	30	2	○		
		○	人体機能学	人体を構成するさまざまな器官を機能および系統別にまと め、肉眼レベルおよび細胞・組織レベルで、その形態と構 造の成り立ちと構成要素ならびにその仕組みや機能を学 ぶ。	4 後	15	1	○		
		○	人体構造学	人体構成器官を機能および系統別にまとめ、その形態と構 造の成り立ちと構成要素ならびにその仕組みや機能を学 ぶ。このことより、人体の構造と機能に関する基礎的な知見 について修得する。	4	15	1	○		
		○	臨床薬理学	薬と生体との相互作用により引き起こされる現象を研究する 科学を理解するとともに、薬物治療原理の基本を学ぶ。	4 後	30	2	○		
		○	看護概論	看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性 を認識できる態度を養う。	4 前	30	2	○		

○		母性看護論	① 母性看護の意義と母子の健康の動向について学ぶ。 ② ライフサイクル各期の女性に対する看護を学ぶ。 ③ 母子を取り巻く社会の変化に対応した看護を学ぶ。 ④ 母子の人権・倫理について、その意義と倫理的課題について学ぶ。	3 前	30	2	○		
	○	こども看護論	1. こども看護の対象や目的を理解する。 2. こどもを取り巻く社会・文化・環境の影響を理解する。 3. 留意すべきこどもの権利を理解する。 4. 特別な支援で必要な基礎知識を理解する。 5. こども自らが成長し発揮できるような支援方法について考える。	3 前	30	2	○		
	○	介護体験実習	「介護・介助体験」を原体験として、生あるものの尊 厳と共に生きることの意味、社会的弱者に対する人権意識と ノーマライゼーションの思想を深める。	4 通	56	1			○
合計			120 科目	単位 (220 単位 3716時間)					